

# 医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会のIF記載要領2013に準拠して作成

## アレルギー性疾患治療剤

日本薬局方 オロパタジン塩酸塩錠  
 オロパタジン塩酸塩錠 2.5mg「日医工」  
 オロパタジン塩酸塩錠 5mg「日医工」  
 オロパタジン塩酸塩 OD 錠 2.5mg「日医工」  
 オロパタジン塩酸塩 OD 錠 5mg「日医工」  
 Olopatadine Hydrochloride

剤形	錠：フィルムコーティング錠 OD錠：素錠（口腔内崩壊錠）		
製剤の規制区分	なし		
規格・含量	錠 2.5mg, OD錠 2.5mg：1錠中オロパタジン塩酸塩 2.5mg 含有 錠 5mg, OD錠 5mg：1錠中オロパタジン塩酸塩 5mg 含有		
一般名	和名：オロパタジン塩酸塩 洋名：Olopatadine Hydrochloride		
製造販売承認年月日 薬価基準収載・発売年月日		錠 2.5mg, 錠 5mg	OD錠 2.5mg, OD錠 5mg
	承認年月日	2012年 8月 15日	2013年 2月 15日
	薬価基準収載 発売年月日	2012年 12月 14日	2013年 6月 21日
開発・製造販売（輸入）・ 提携・販売会社名	製造販売元：日医工株式会社		
医薬情報担当者の連絡先			
問い合わせ窓口	日医工株式会社 お客様サポートセンター TEL：0120-517-215 FAX：076-442-8948 医療関係者向けホームページ <a href="http://www.nichiiko.co.jp/">http://www.nichiiko.co.jp/</a>		

本 IF は 2015 年 3 月改訂（錠：第 4 版）及び 2014 年 12 月改訂（OD 錠：第 3 版）の添付文書の記載に基づき改訂した。

最新の添付文書情報は、医薬品医療機器総合機構ホームページ  
<http://www.pmda.go.jp/>にてご確認下さい。

## IF利用の手引きの概要 —日本病院薬剤師会—

### 1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書（以下、添付文書と略す）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和63年に日本病院薬剤師会（以下、日病薬と略す）学術第2小委員会が「医薬品インタビューフォーム」（以下、IFと略す）の位置付け並びにIF記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成10年9月に日病薬学術第3小委員会においてIF記載要領の改訂が行われた。

更に10年が経過し、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成20年9月に日病薬医薬情報委員会においてIF記載要領2008が策定された。

IF記載要領2008では、IFを紙媒体の冊子として提供する方式から、PDF等の電磁的データとして提供すること（e-IF）が原則となった。この変更にあわせて、添付文書において「効能・効果の追加」、「警告・禁忌・重要な基本的注意の改訂」などの改訂があった場合に、改訂の根拠データを追加した最新版のe-IFが提供されることとなった。

最新版のe-IFは、（独）医薬品医療機器総合機構のホームページ（<http://www.pmda.go.jp/>）から一括して入手可能となっている。日本病院薬剤師会では、e-IFを掲載する医薬品情報提供ホームページが公式サイトであることに配慮して、薬価基準収載にあわせてe-IFの情報を検討する組織を設置して、個々のIFが添付文書を補完する適正使用情報として適切か審査・検討することとした。

2008年より年4回のインタビューフォーム検討会を開催した中で指摘してきた事項を再評価し、製薬企業にとっても、医師・薬剤師等にとっても、効率の良い情報源とすることを考えた。そこで今般、IF記載要領の一部改訂を行いIF記載要領2013として公表する運びとなった。

### 2. IFとは

IFは「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等はIFの記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供されたIFは、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

#### [IFの様式]

- ①規格はA4版、横書きとし、原則として9ポイント以上の字体（図表は除く）で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。
- ②IF記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。
- ③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「IF利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2頁にまとめる。

#### [IFの作成]

- ①IFは原則として製剤の投与経路別（内用剤、注射剤、外用剤）に作成される。
- ②IFに記載する項目及び配列は日病薬が策定したIF記載要領に準拠する。
- ③添付文書の内容を補完するとのIFの主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤「医薬品インタビューフォーム記載要領2013」（以下、「IF記載要領2013」と略す）により作成されたIFは、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体（PDF）から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

## **【IFの発行】**

- ①「IF記載要領2013」は、平成25年10月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ②上記以外の医薬品については、「IF記載要領2013」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果（臨床再評価）が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合にはIFが改訂される。

### **3. IFの利用にあたって**

「IF記載要領2013」においては、PDFファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則である。

電子媒体のIFについては、医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、IFの原点を踏まえ、医療現場に不足している情報やIF作成時に記載し難い情報等については製薬企業のMR等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、IFの利用性を高める必要がある。

また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IFが改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IFの使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

### **4. 利用に際しての留意点**

IFを薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。IFは日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、IFがあくまでも添付文書を補完する情報資材であり、今後インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2013年4月改訂)

# 目 次

<b>I. 概要に関する項目</b> .....	1	<b>VI. 薬効薬理に関する項目</b> .....	25
1. 開発の経緯.....	1	1. 薬理的に関連のある化合物又は化合物群	25
2. 製品の治療学的・製剤学的特性 .....	1	2. 薬理作用 .....	25
<b>II. 名称に関する項目</b> .....	2	<b>VII. 薬物動態に関する項目</b> .....	26
1. 販売名 .....	2	1. 血中濃度の推移・測定法.....	26
2. 一般名 .....	2	2. 薬物速度論的パラメータ .....	30
3. 構造式又は示性式 .....	2	3. 吸収 .....	30
4. 分子式及び分子量 .....	2	4. 分布 .....	30
5. 化学名（命名法） .....	2	5. 代謝 .....	30
6. 慣用名，別名，略号，記号番号 .....	2	6. 排泄 .....	31
7. CAS登録番号 .....	2	7. トランスポーターに関する情報.....	31
<b>III. 有効成分に関する項目</b> .....	3	8. 透析等による除去率.....	31
1. 物理化学的性質 .....	3	<b>VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目</b> .....	32
2. 有効成分の各種条件下における安定性 .....	3	1. 警告内容とその理由 .....	32
3. 有効成分の確認試験法.....	3	2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む） ...	32
4. 有効成分の定量法 .....	3	3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由 .....	32
<b>IV. 製剤に関する項目</b> .....	4	4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由 .....	32
1. 剤形.....	4	5. 慎重投与内容とその理由.....	32
2. 製剤の組成.....	5	6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法	32
3. 懸濁剤，乳剤の分散性に対する注意.....	5	7. 相互作用 .....	32
4. 製剤の各種条件下における安定性 .....	6	8. 副作用.....	33
5. 調製法及び溶解後の安定性 .....	18	9. 高齢者への投与 .....	33
6. 他剤との配合変化（物理化学的変化） .....	18	10. 妊婦，産婦，授乳婦等への投与.....	34
7. 溶出性.....	18	11. 小児等への投与 .....	34
8. 生物学的試験法 .....	23	12. 臨床検査結果に及ぼす影響 .....	34
9. 製剤中の有効成分の確認試験法 .....	23	13. 過量投与 .....	34
10. 製剤中の有効成分の定量法 .....	23	14. 適用上の注意.....	34
11. 力価.....	23	15. その他の注意.....	34
12. 混入する可能性のある夾雑物.....	23	16. その他.....	34
13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報.....	23	<b>IX. 非臨床試験に関する項目</b> .....	35
14. その他.....	23	1. 薬理試験 .....	35
<b>V. 治療に関する項目</b> .....	24	2. 毒性試験 .....	35
1. 効能又は効果 .....	24		
2. 用法及び用量 .....	24		
3. 臨床成績 .....	24		

<b>X. 管理的事項に関する項目</b> .....	<b>36</b>
1. 規制区分 .....	36
2. 有効期間又は使用期限.....	36
3. 貯法・保存条件 .....	36
4. 薬剤取扱い上の注意点.....	36
5. 承認条件等.....	36
6. 包装.....	36
7. 容器の材質.....	37
8. 同一成分・同効薬.....	37
9. 国際誕生年月日 .....	37
10. 製造販売承認年月日及び承認番号 .....	37
11. 薬価基準収載年月日 .....	37
12. 効能又は効果追加, 用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容.....	38
13. 再審査結果, 再評価結果公表年月日及びその内容.....	38
14. 再審査期間.....	38
15. 投与期間制限医薬品に関する情報 .....	38
16. 各種コード.....	38
17. 保険給付上の注意.....	38
<b>X I. 文献</b> .....	<b>39</b>
1. 引用文献 .....	39
2. その他の参考文献.....	39
<b>X II. 参考資料</b> .....	<b>39</b>
1. 主な外国での発売状況.....	39
2. 海外における臨床支援情報 .....	39
<b>X III. 備考</b> .....	<b>39</b>
付表 1—1 .....	40
付表 1—2 .....	41
付表 1—3 .....	42

## I. 概要に関する項目

### 1. 開発の経緯

本剤は、オロパタジン塩酸塩を有効成分とするアレルギー性疾患治療剤である。

「オロパタジン塩酸塩錠 2.5mg「日医工」」及び「オロパタジン塩酸塩錠 5mg「日医工」」は、日医工株式会社が後発医薬品として開発を企画し、規格及び試験方法を設定、安定性試験、生物学的同等性試験を実施し、2012年8月15日に承認を取得、2012年12月14日に上市した。（薬食発第0331015号（平成17年3月31日）に基づき承認申請）

「オロパタジン塩酸塩 OD 錠 2.5mg「日医工」」及び「オロパタジン塩酸塩 OD 錠 5mg「日医工」」は、日医工株式会社が後発医薬品として開発を企画し、規格及び試験方法を設定、安定性試験、生物学的同等性試験を実施し、2013年2月15日に承認を取得、2013年6月21日に上市した。（薬食発第0331015号（平成17年3月31日）に基づき承認申請）

2014年12月17日付で「オロパタジン塩酸塩錠 2.5mg「日医工」」，「オロパタジン塩酸塩錠 5mg「日医工」」，「オロパタジン塩酸塩 OD 錠 2.5mg「日医工」」及び「オロパタジン塩酸塩 OD 錠 5mg「日医工」」は，「小児」の効能・効果及び用法・用量が追加された。

### 2. 製品の治療学的・製剤学的特性

- (1) 1日2回，朝及び就寝前に服用するアレルギー性疾患治療剤である。
- (2) 錠 2.5mg は，錠剤の両面に成分名・含量・社名を印字した。
- (3) 錠 5mg は，分割性を配慮した，独自デザインのクロスタップ®錠である。
- (4) OD 錠は，香料としてパイナップルフレーバーを使用している。
- (5) 全規格の PTP シートはピッチコントロールを行い，1錠ごとに成分名・含量を表示した。
- (6) PTP の裏面に薬効分類名「アレルギー性疾患治療薬」を表示した。
- (7) 重大な副作用（頻度不明）として，劇症肝炎，肝機能障害，黄疸が報告されている。

## II. 名称に関する項目

### 1. 販売名

#### (1) 和名

オロパタジン塩酸塩錠 2.5mg「日医工」

オロパタジン塩酸塩錠 5mg「日医工」

オロパタジン塩酸塩 OD 錠 2.5mg「日医工」

オロパタジン塩酸塩 OD 錠 5mg「日医工」

#### (2) 洋名

Olopatadine Hydrochloride

#### (3) 名称の由来

一般名より

### 2. 一般名

#### (1) 和名 (命名法)

オロパタジン塩酸塩 (JAN)

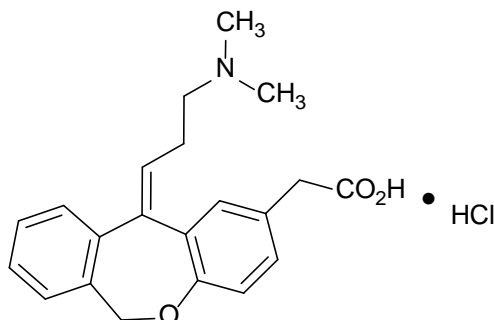
#### (2) 洋名 (命名法)

Olopatadine Hydrochloride (JAN)

#### (3) ステム

三環系ヒスタミン H<sub>1</sub> 受容体拮抗薬 : -tadine

### 3. 構造式又は示性式



### 4. 分子式及び分子量

分子式 : C<sub>21</sub>H<sub>23</sub>NO<sub>3</sub> · HCl

分子量 : 373.87

### 5. 化学名 (命名法)

{11-[(1 $\beta$ )-3-(Dimethylamino)propylidene]-6,11-dihydrodibenzo[*b,e*]oxepin-2-yl}acetic acid monohydrochloride (IUPAC)

### 6. 慣用名, 別名, 略号, 記号番号

特になし

### 7. CAS 登録番号

140462-76-6

### Ⅲ. 有効成分に関する項目

#### 1. 物理化学的性質

##### (1) 外観・性状

白色の結晶又は結晶性の粉末である。

##### (2) 溶解性

ギ酸に極めて溶けやすく，水にやや溶けにくく，エタノール（99.5）に極めて溶けにくい。  
本品は 0.01mol/L 塩酸試液に溶ける。

##### (3) 吸湿性

該当資料なし

##### (4) 融点（分解点），沸点，凝固点

融点：約 250℃（分解）

##### (5) 酸塩基解離定数

該当資料なし

##### (6) 分配係数

該当資料なし

##### (7) その他の主な示性値

本品 1.0g を水 100mL に溶かした液の pH は 2.3～3.3 である。

#### 2. 有効成分の各種条件下における安定性

該当資料なし

#### 3. 有効成分の確認試験法

##### (1) 紫外可視吸光度測定法

本品のスペクトルと本品の参照スペクトルを比較するとき，両者のスペクトルは同一波長のところに同様の強度の吸収を認める。

##### (2) 赤外吸収スペクトル測定法

本品のスペクトルと本品の参照スペクトルを比較するとき，両者のスペクトルは同一波数のところに同様の強度の吸収を認める。

##### (3) 定性反応

本品の水溶液に希硝酸を加えた液は塩化物の定性反応(2)を呈する。

#### 4. 有効成分の定量法

電位差滴定法















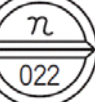




本品をギ酸に溶かし，無水酢酸，酢酸混液を加え，過塩素酸で滴定する。



#### IV. 製剤に関する項目

##### 1. 剤形

##### (1) 剤形の区別, 外観及び性状

	色調 剤形	形 状			本体表示 包装コード
		質量(mg)	直径(mm)	厚さ(mm)	
オロパタジン 塩酸塩錠 2.5mg 「日医工」	淡黄赤色 フィルムコーテ ィング錠	 83	 6.1	 3.0	本体：オロパタジン 2.5 日医工 包装：  813
オロパタジン 塩酸塩錠 5mg 「日医工」	淡黄赤色 フィルムコーテ ィング錠	 124	 7.1	 3.1	本体：  814 包装：  814
オロパタジン 塩酸塩 OD 錠 2.5mg「日医工」	ごくうすい黄色 素錠 (口腔内崩壊錠)	 150	 7.5	 2.7	本体：  021 2.5 包装：  021
オロパタジン 塩酸塩 OD 錠 5mg「日医工」	ごくうすい黄色 素錠 (口腔内崩壊錠)	 220	 8.5	 3.2	本体：  022 5 包装：  022

##### (2) 製剤の物性

	製剤均一性試験 (含量均一性試験)	
オロパタジン塩酸塩 錠 2.5mg「日医工」	判定値：15.0%以下	試験結果：1.0%～2.2%
オロパタジン塩酸塩 錠 5mg「日医工」	判定値：15.0%以下	試験結果：0.5%～2.4%
オロパタジン塩酸塩 OD 錠 2.5mg「日医工」	判定値：15.0%以下	試験結果：1.4%～2.9%
オロパタジン塩酸塩 OD 錠 5mg「日医工」	判定値：15.0%以下	試験結果：0.7%～2.7%

##### (3) 識別コード

(「IV-1.(1)剤形の区別, 外観及び性状」の項参照)

##### (4) pH, 浸透圧比, 粘度, 比重, 無菌の旨及び安定な pH 域等

該当資料なし

## 2. 製剤の組成

### (1) 有効成分（活性成分）の含量

オロパタジン塩酸塩錠 2.5mg「日医工」 : 1錠中オロパタジン塩酸塩 2.5mg を含有する。

オロパタジン塩酸塩錠 5mg「日医工」 : 1錠中オロパタジン塩酸塩 5mg を含有する。

オロパタジン塩酸塩 OD 錠 2.5mg「日医工」 : 1錠中オロパタジン塩酸塩 2.5mg を含有する。

オロパタジン塩酸塩 OD 錠 5mg「日医工」 : 1錠中オロパタジン塩酸塩 5mg を含有する。

### (2) 添加物

オロパタジン塩酸塩錠 2.5mg「日医工」, オロパタジン塩酸塩錠 5mg「日医工」

添加目的	添加物
賦形剤	乳糖, セルロース
結合剤	ヒドロキシプロピルセルロース
崩壊剤	デンプングリコール酸ナトリウム
滑沢剤	ステアリン酸マグネシウム
コーティング剤	ヒプロメロース, マクロゴール, 酸化チタン
着色剤	三二酸化鉄, 黄色三二酸化鉄
光沢化剤	カルナウバロウ

オロパタジン塩酸塩 OD 錠 2.5mg「日医工」, オロパタジン塩酸塩 OD 錠 5mg「日医工」

添加目的	添加物
賦形剤	D-マンニトール
崩壊剤	クロスカルメロースナトリウム
滑沢剤	ステアリン酸マグネシウム
甘味剤	アスパルテーム (L-フェニルアラニン化合物)
着色剤	黄色三二酸化鉄
香料	香料
その他	1成分

### (3) その他

該当記載事項なし

## 3. 懸濁剤, 乳剤の分散性に対する注意

該当しない

#### 4. 製剤の各種条件下における安定性<sup>1)</sup>

##### (1) 加速試験

本品につき加速試験（40℃，相対湿度 75%，6 ヶ月）を行った結果，オロパタジン塩酸塩錠 2.5mg「日医工」，オロパタジン塩酸塩錠 5mg「日医工」，オロパタジン塩酸塩 OD 錠 2.5mg「日医工」及びオロパタジン塩酸塩 OD 錠 5mg「日医工」は通常の市場流通下において 3 年間安定であることが推測された。

##### ◇オロパタジン塩酸塩錠 2.5mg「日医工」 加速試験 [最終包装形態 (PTP 包装)]

測定項目	ロット 番号	保存期間			
		開始時	1 ヶ月	3 ヶ月	6 ヶ月
性状 <淡黄赤色のフィルムコーティング錠>	KI0701 KI0801 AK1001	適合	同左	同左	同左
確認試験 (紫外可視吸光度測定法)	KI0701 KI0801 AK1001	適合	同左	同左	同左
製剤均一性 (含量均一性試験) <15.0%以下>	KI0701 KI0801 AK1001	1.4 1.8 1.0	—	—	1.1 0.8 1.2
溶出性 (%) <15 分, 85%以上>	KI0701 KI0801 AK1001	100.7~103.8 101.5~104.2 99.4~102.0	96.0~97.5 95.3~97.7 98.7~102.5	94.2~96.8 92.3~96.6 99.8~101.6	94.9~98.2 94.1~96.8 98.2~100.7
含量 (%) ※ <95.0~105.0%>	KI0701 KI0801 AK1001	101.5 99.6 101.7	101.9 101.4 101.4	101.6 101.7 101.5	101.5 101.2 101.4

※：表示量に対する含有率 (%)

##### ◇オロパタジン塩酸塩錠 5mg「日医工」 加速試験 [最終包装形態 (PTP 包装)]

測定項目	ロット 番号	保存期間			
		開始時	1 ヶ月	3 ヶ月	6 ヶ月
性状 <淡黄赤色の割線入りフィルムコーティング錠>	GK0901 GK1001 HK0701	適合	同左	同左	同左
確認試験 (紫外可視吸光度測定法)	GK0901 GK1001 HK0701	適合	—	—	適合
製剤均一性 (含量均一性試験) <15.0%以下>	GK0901 GK1001 HK0701	1.3 1.3 0.9	—	—	3.1 2.6 2.4
溶出性 (%) <15 分, 85%以上>	GK0901 GK1001 HK0701	95.3~99.5 92.9~101.0 97.1~99.9	93.3~97.0 95.4~97.9 95.4~99.0	90.0~97.4 92.1~99.2 95.8~99.5	91.1~97.7 95.1~98.7 95.8~97.7
含量 (%) ※ <95.0~105.0%>	GK0901 GK1001 HK0701	99.0 98.7 98.9	98.1 100.2 99.1	98.4 100.1 99.4	99.4 101.1 99.8

※：表示量に対する含有率 (%)

◇オロパタジン塩酸塩錠 5mg「日医工」 加速試験 [最終包装形態 (バラ包装) ]

測定項目	ロット 番号	保存期間			
		開始時	1 ヶ月	3 ヶ月	6 ヶ月
性状 <淡黄赤色の割線入りフィルム コーティング錠>	OLO5T-1 OLO5T-2 OLO5T-3	適合	同左	同左	同左
確認試験 (紫外可視吸光度測定法)	OLO5T-1 OLO5T-2 OLO5T-3	適合	同左	同左	同左
製剤均一性 (含量均一性試験) <15.0%以下>	OLO5T-1 OLO5T-2 OLO5T-3	0.7 0.5~1.0 1.4~2.4	—	—	0.7 1.0~1.2 1.5~2.5
溶出性 (%) <15 分, 85%以上>	OLO5T-1 OLO5T-2 OLO5T-3	94.7~100.9 97.0~100.2 96.6~101.1	94.1~100.1 93.4~99.5 89.3~101.8	87.3~98.9 87.8~98.8 91.1~98.9	93.7~98.3 90.3~97.8 91.4~97.5
含量 (%) ※ <95.0~105.0%>	OLO5T-1 OLO5T-2 OLO5T-3	100.5 100.2 100.4	98.5 99.2 98.4	98.7 98.5 98.2	98.2 98.3 97.9

※：表示量に対する含有率 (%)

◇オロパタジン塩酸塩 OD 錠 2.5mg「日医工」 加速試験 [最終包装形態 (PTP 包装) ]

測定項目	ロット 番号	保存期間			
		開始時	1 ヶ月	3 ヶ月	6 ヶ月
性状 <ごくうすい黄色の素錠>	CK1501 CK1601 CK1901	適合	同左	同左	同左
確認試験 (紫外可視吸光度測定法)	CK1501 CK1601 CK1901	適合	—	—	適合
純度試験 (HPLC) <※1>	CK1501 CK1601 CK1901	適合	同左	同左	同左
製剤均一性 (含量均一性試験) <15.0%以下>	CK1501 CK1601 CK1901	1.6 1.7 1.7	—	—	1.4 1.0 1.9
崩壊試験 (秒) <60 秒以内>	CK1501 CK1601 CK1901	26~33 32~35 21~30	16~60 16~20 35~36	22~24 20~23 20~22	26~33 32~34 25~30
溶出性 (%) <15 分, 85%以上>	CK1501 CK1601 CK1901	82.6*3~95.6 81.8*4~94.8 98.6~109.0	96.1~100.6 77.6*3~118.9 103.4~105.1	94.3~99.3 97.3~100.5 98.0~100.2	98.3~100.5 97.5~100.8 98.2~99.7
含量 (%) ※2 <95.0~105.0%>	CK1501 CK1601 CK1901	100.4 101.3 100.6	99.5 99.8 99.4	98.8 99.7 98.8	99.8 100.2 99.6

※1：個々の類縁物質：0.3%以下，総類縁物質：0.5%以下 ※2：表示量に対する含有率 (%)

※3：10/12 錠適合のため,規格に適合した ※4：11/12 錠適合のため,規格に適合した

◇オロパタジン塩酸塩 OD錠 5mg「日医工」 加速試験 [最終包装形態 (PTP包装)]

測定項目	ロット 番号	保存期間			
		開始時	1 ヶ月	3 ヶ月	6 ヶ月
性状 <ごくうすい黄色の割線入り素錠>	CK1601 CK1701 CK1801	適合	同左	同左	同左
確認試験 (紫外可視吸光度測定法)	CK1601 CK1701 CK1801	適合	—	—	適合
純度試験 (HPLC) <※1>	CK1601 CK1701 CK1801	適合	同左	同左	同左
製剤均一性 (含量均一性試験) <15.0%以下>	CK1601 CK1701 CK1801	1.2 3.6 1.0	—	—	0.9 7.4 2.2
崩壊試験 (秒) <60 秒以内>	CK1601 CK1701 CK1801	41~53 36~40 40~43	30~31 32~40 28~30	31~43 32~40 33~39	26~28 34~36 32~36
溶出性 (%) <15 分, 85%以上>	CK1601 CK1701 CK1801	79.4*3~101.2 96.9~100.0 97.3~112.6	59.1*3~100.8 94.2~101.5 99.3~110.8	98.4~101.2 96.8~101.4 63.1*3~103.3	99.9~102.3 96.3~101.4 93.3~102.8
含量 (%) ※2 <95.0~105.0%>	CK1601 CK1701 CK1801	99.6 99.6 98.5	99.5 99.3 99.3	98.9 98.4 99.3	99.3 99.4 99.3

※1: 個々の類縁物質: 0.3%以下, 総類縁物質: 0.5%以下 ※2: 表示量に対する含有率 (%)

※3: 10/12 錠適合のため, 規格に適合した

◇オロパタジン塩酸塩 OD錠 5mg「日医工」 加速試験 [最終包装形態 (バラ包装)]

測定項目	ロット 番号	保存期間			
		開始時	1 ヶ月	3 ヶ月	6 ヶ月
性状 <ごくうすい黄色の割線入り素錠>	JI2802	適合	同左	同左	同左
確認試験 (紫外可視吸光度測定法)	JI2802	適合	—	—	適合
純度試験 (HPLC) <※1>	JI2802	適合	同左	同左	同左
製剤均一性 (含量均一性試験) <15.0%以下>	JI2802	0.8	—	—	2.9
崩壊試験 (秒) <60 秒以内>	JI2802	20~30	5~16	15~16	15~18
溶出性 (%) <15 分, 85%以上>	JI2802	94.9~100.6	99.1~101.0	96.9~101.6	100.6~108.9
含量 (%) ※2 <95.0~105.0%>	JI2802	101.2	103.1	99.1	100.1

※1: 個々の類縁物質: 0.3%以下, 総類縁物質: 0.5%以下 ※2: 表示量に対する含有率 (%)

(2) 無包装の安定性試験

◇オロパタジン塩酸塩錠 2.5mg「日医工」 無包装 40℃ [遮光, 気密容器]

測定項目	ロット 番号	保存期間				
		開始時	2 週	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月
性状 <淡黄赤色のフィルムコーティング錠>	DI120	適合	同左	同左	同左	同左
純度試験 (HPLC) <※1>	DI120	適合	同左	同左	同左	同左
溶出性 (%) <15 分, 85%以上>	DI120	100.2~101.9	98.2~101.1	97.3~100.7	98.3~101.3	98.4~100.9
含量 (%) ※2 <95.0~105.0%>	DI120	101.1	100.6	100.4	100.9	100.1
(参考値) 硬度 (N) <19.6N 以上>	DI120	71	70	73	76	81

※1: 個々の類縁物質: 0.4%以下, 総類縁物質: 1.2%以下 ※2: 表示量に対する含有率 (%)

◇オロパタジン塩酸塩錠 2.5mg「日医工」 無包装 25℃・75%RH [遮光, 開放]

測定項目	ロット 番号	保存期間				
		開始時	2 週	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月
性状 <淡黄赤色のフィルムコーティング錠>	DI120	適合	同左	同左	同左	同左
純度試験 (HPLC) <※1>	DI120	適合	同左	同左	同左	同左
溶出性 (%) <15 分, 85%以上>	DI120	100.2~101.9	98.0~101.4	96.8~101.1	96.7~101.1	98.5~100.6
含量 (%) ※2 <95.0~105.0%>	DI120	101.1	101.0	99.9	100.7	99.9
(参考値) 硬度 (N) <19.6N 以上>	DI120	71	<b>38</b> (規格内) ※3	<b>43</b> (規格内) ※3	<b>48</b> (規格内) ※3	<b>48</b> (規格内) ※3

※1: 個々の類縁物質: 0.4%以下, 総類縁物質: 1.2%以下 ※2: 表示量に対する含有率 (%)

※3: 30%以上の硬度変化を認めたが参考値 (19.6N) 以上であった 変化あり: 太字

◇オロパタジン塩酸塩錠 2.5mg「日医工」 無包装 室温・曝光 [D65 光源, 気密容器]

測定項目	ロット 番号	総曝光量			
		開始時	40 万 Lx・hr	80 万 Lx・hr	120 万 Lx・hr
性状 <淡黄赤色のフィルムコーティング錠>	DI120	適合	同左	同左	同左
純度試験 (HPLC) <※1>	DI120	適合	同左	同左	同左
溶出性 (%) <15 分, 85%以上>	DI120	100.2~101.9	102.5~103.4	100.3~103.1	98.9~103.3
含量 (%) ※2 <95.0~105.0%>	DI120	101.1	101.2	99.6	99.1
(参考値) 硬度 (N) <19.6N 以上>	DI120	71	61	71	67

※1: 個々の類縁物質: 0.4%以下, 総類縁物質: 1.2%以下 ※2: 表示量に対する含有率 (%)

◇オロパタジン塩酸塩錠 5mg「日医工」 無包装 40℃ [遮光, 気密容器]

測定項目	ロット 番号	保存期間				
		開始時	2 週	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月
性状 <淡黄赤色の割線入りフィルムコーティング錠>	DI130	適合	同左	同左	同左	同左
純度試験 (HPLC) <※1>	DI130	適合	同左	同左	同左	同左
溶出性 (%) <15 分, 85%以上>	DI130	98.4~103.7	95.6~104.2	98.8~102.1	95.5~100.7	95.0~100.0
含量 (%) ※2 <95.0~105.0%>	DI130	100.6	99.5	99.2	99.6	99.9
(参考値) 硬度 (N) <19.6N 以上>	DI130	69	70	73	70	69

※1: 個々の類縁物質: 0.4%以下, 総類縁物質: 1.2%以下 ※2: 表示量に対する含有率 (%)

◇オロパタジン塩酸塩錠 5mg「日医工」 無包装 25℃・75%RH [遮光, 開放]

測定項目	ロット 番号	保存期間				
		開始時	2 週	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月
性状 <淡黄赤色の割線入りフィルムコーティング錠>	DI130	適合	同左	同左	同左	同左
純度試験 (HPLC) <※1>	DI130	適合	同左	同左	同左	同左
溶出性 (%) <15 分, 85%以上>	DI130	98.4~103.7	94.7~102.2	94.5~102.4	93.8~100.7	92.2~99.4
含量 (%) ※2 <95.0~105.0%>	DI130	100.6	99.2	99.0	100.0	100.1
(参考値) 硬度 (N) <19.6N 以上>	DI130	69	<b>39</b> (規格内) ※3	<b>43</b> (規格内) ※3	<b>46</b> (規格内) ※3	<b>46</b> (規格内) ※3

※1: 個々の類縁物質: 0.4%以下, 総類縁物質: 1.2%以下 ※2: 表示量に対する含有率 (%)

※3: 30%以上の硬度変化を認めたが参考値 (19.6N) 以上であった 変化あり: 太字

◇オロパタジン塩酸塩錠 5mg「日医工」 無包装 室温・曝光 [D65 光源, 気密容器]

測定項目	ロット 番号	総曝光量			
		開始時	40 万 Lx・hr	80 万 Lx・hr	120 万 Lx・hr
性状 <淡黄赤色の割線入りフィルムコーティング錠>	DI130	適合	同左	同左	同左
純度試験 (HPLC) <※1>	DI130	適合	同左	同左	同左
溶出性 (%) <15 分, 85%以上>	DI130	98.4~103.7	89.7~97.9	98.4~100.5	95.2~99.6
含量 (%) ※2 <95.0~105.0%>	DI130	100.6	100.4	99.3	98.8
(参考値) 硬度 (N) <19.6N 以上>	DI130	69	62	67	61

※1: 個々の類縁物質: 0.4%以下, 総類縁物質: 1.2%以下 ※2: 表示量に対する含有率 (%)

◇オロパタジン塩酸塩 OD 錠 2.5mg「日医工」 無包装 40℃ [遮光, 気密容器]

測定項目	ロット 番号	保存期間				
		開始時	2 週	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月
性状 <ごくうすい黄色の素錠>	J1130	適合	同左	同左	同左	同左
純度試験 (HPLC) <※1>	J1130	適合	同左	同左	同左	同左
溶出性 (%) <15 分, 85%以上>	J1130	97.3~100.9	98.3~101.1	101.1~104.2	94.4~98.7	100.7~104.2
含量 (%) ※2 <95.0~105.0%>	J1130	97.5	97.6	97.5	97.2	97.8
(参考値) 硬度 (N) <19.6N 以上>	J1130	65	68	65	64	67

※1: 個々の類縁物質: 0.3%以下, 総類縁物質: 0.5%以下 ※2: 表示量に対する含有率 (%)

◇オロパタジン塩酸塩 OD 錠 2.5mg「日医工」 無包装 25℃・75%RH [遮光, 開放]

測定項目	ロット 番号	保存期間				
		開始時	2 週	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月
性状 <ごくうすい黄色の素錠>	J1130	適合	同左	同左	同左	同左
純度試験 (HPLC) <※1>	J1130	適合	同左	同左	同左	同左
溶出性 (%) <15 分, 85%以上>	J1130	97.3~100.9	98.4~102.2	100.0~102.9	96.2~98.7	98.3~101.1
含量 (%) ※2 <95.0~105.0%>	J1130	97.5	98.0	98.2	97.7	98.2
(参考値) 硬度 (N) <19.6N 以上>	J1130	65	<b>45</b> (規格内) ※3	<b>43</b> (規格内) ※3	<b>42</b> (規格内) ※3	<b>33</b> (規格内) ※3

※1: 個々の類縁物質: 0.3%以下, 総類縁物質: 0.5%以下 ※2: 表示量に対する含有率 (%)

※3: 30%以上の硬度変化を認めたが参考値 (19.6N) 以上であった 変化あり: 太字

◇オロパタジン塩酸塩 OD 錠 2.5mg「日医工」 無包装 室温・曝光 [D65 光源, 気密容器]

測定項目	ロット 番号	総曝光量			
		開始時	40 万 Lx・hr	80 万 Lx・hr	120 万 Lx・hr
性状 <ごくうすい黄色の素錠>	J1130	適合	同左	同左	同左
純度試験 (HPLC) <※1>	J1130	適合	同左	同左	同左
溶出性 (%) <15 分, 85%以上>	J1130	97.3~100.9	100.3~103.3	102.1~105.5	97.6~101.5
含量 (%) ※2 <95.0~105.0%>	J1130	97.5	97.5	97.5	97.0
(参考値) 硬度 (N) <19.6N 以上>	J1130	65	65	64	68

※1: 個々の類縁物質: 0.3%以下, 総類縁物質: 0.5%以下 ※2: 表示量に対する含有率 (%)



◇オロパタジン塩酸塩 OD錠 5mg「日医工」 無包装 40℃ [遮光, 気密容器]

測定項目	ロット番号	保存期間				
		開始時	2週	1ヵ月	2ヵ月	3ヵ月
性状 <ごくうすい黄色の割線入り素錠>	J1160	適合	同左	同左	同左	同左
純度試験 (HPLC) <※1>	J1160	適合	同左	同左	同左	同左
溶出性 (%) <15分, 85%以上>	J1160	95.0~101.7	100.2~103.7	98.1~102.5	101.4~104.1	100.0~102.1
含量 (%) ※2 <95.0~105.0%>	J1160	98.4	97.8	98.5	97.2	98.3
(参考値) 硬度 (N) <19.6N 以上>	J1160	59	60	61	60	58

※1: 個々の類縁物質: 0.3%以下, 総類縁物質: 0.5%以下 ※2: 表示量に対する含有率 (%)

◇オロパタジン塩酸塩 OD錠 5mg「日医工」 無包装 25℃・75%RH [遮光, 開放]

測定項目	ロット番号	保存期間				
		開始時	2週	1ヵ月	2ヵ月	3ヵ月
性状 <ごくうすい黄色の割線入り素錠>	J1160	適合	同左	同左	同左	やや黄色味を増す (規格内) ※3
純度試験 (HPLC) <※1>	J1160	適合	同左	同左	同左	同左
溶出性 (%) <15分, 85%以上>	J1160	95.0~101.7	101.6~103.6	100.6~102.7	100.1~101.7	97.0~102.6
含量 (%) ※2 <95.0~105.0%>	J1160	98.4	97.9	98.5	97.4	98.7
(参考値) 硬度 (N) <19.6N 以上>	J1160	59	<b>36</b> (規格内) ※4	<b>36</b> (規格内) ※4	<b>35</b> (規格内) ※4	<b>30</b> (規格内) ※4

※1: 個々の類縁物質: 0.3%以下, 総類縁物質: 0.5%以下 ※2: 表示量に対する含有率 (%)

※3: 外観変化を認めたが規格の範囲内であった。 ※4: 30%以上の硬度変化を認めたが参考値 (19.6N) 以上であった  
変化あり: 太字

◇オロパタジン塩酸塩 OD錠 5mg「日医工」 無包装 室温・曝光 [D65光源, 気密容器]

測定項目	ロット番号	総曝光量			
		開始時	40万 Lx・hr	80万 Lx・hr	120万 Lx・hr
性状 <ごくうすい黄色の割線入り素錠>	J1160	適合	同左	同左	同左
純度試験 (HPLC) <※1>	J1160	適合	同左	同左	同左
溶出性 (%) <15分, 85%以上>	J1160	95.0~101.7	98.4~102.7	97.9~102.4	99.8~101.2
含量 (%) ※2 <95.0~105.0%>	J1160	98.4	97.9	97.8	97.7
(参考値) 硬度 (N) <19.6N 以上>	J1160	59	59	54	62

※1: 個々の類縁物質: 0.3%以下, 総類縁物質: 0.5%以下 ※2: 表示量に対する含有率 (%)

本試験は, 「(社)日本病院薬剤師会: 錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性試験法について (答申), 平成 11 年 8 月 20 日」を参考に評価した。

(3) 粉砕物の安定性試験

◇オロパタジン塩酸塩錠 2.5mg「日医工」 粉砕物 25℃・75%RH [遮光, 開放]

測定項目	ロット 番号	保存期間				
		開始時	2 週	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月
性状	DI120	淡黄赤色の粉末	同左	同左	同左	同左
重量変化 (%)	DI120	—	+1.3	+1.8	+1.8	+1.9
純度試験 (HPLC) <※1>	DI120	適合	同左	同左	同左	同左
含量 (%) ※2<95.0~105.0%>	DI120	99.8	99.7	100.2	101.2	100.4

※1：個々の類縁物質：0.4%以下，総類縁物質：1.2%以下 ※2：表示量に対する含有率 (%)

◇オロパタジン塩酸塩錠 5mg「日医工」 粉砕物 25℃・75%RH [遮光, 開放]

測定項目	ロット 番号	保存期間				
		開始時	2 週	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月
性状	DI130	淡黄赤色の粉末	同左	同左	同左	同左
重量変化 (%)	DI130	—	+1.4	+2.0	+1.7	+1.9
純度試験 (HPLC) <※1>	DI130	適合	同左	同左	同左	同左
含量 (%) ※2<95.0~105.0%>	DI130	100.1	98.5	98.9	99.5	99.9

※1：個々の類縁物質：0.4%以下，総類縁物質：1.2%以下 ※2：表示量に対する含有率 (%)

◇オロパタジン塩酸塩 OD 錠 2.5mg「日医工」 粉砕物 25℃・75%RH [遮光, 開放]

測定項目	ロット 番号	保存期間				
		開始時	2 週	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月
性状	J1130	ごくうすい黄色の粉末	同左	同左	同左	やや黄色みを増す
重量変化 (%)	J1130	—	+1.0	+1.0	+1.0	+1.2
純度試験 (HPLC) <※1>	J1130	適合	同左	同左	同左	同左
含量 (%) ※2<95.0~105.0%>	J1130	97.5	99.0	98.8	98.8	99.1

※1：個々の類縁物質：0.3%以下，総類縁物質：0.5%以下 ※2：表示量に対する含有率 (%) 変化あり：太字

◇オロパタジン塩酸塩 OD 錠 5mg「日医工」 粉砕物 25℃・75%RH [遮光, 開放]

測定項目	ロット 番号	保存期間				
		開始時	2 週	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月
性状	J1160	ごくうすい黄色の粉末	同左	同左	同左	やや黄色みを増す
重量変化 (%)	J1160	—	+1.0	+1.0	+1.0	+1.2
純度試験 (HPLC) <※1>	J1160	適合	同左	同左	同左	同左
含量 (%) ※2<95.0~105.0%>	J1160	98.4	99.1	98.8	98.1	98.9

※1：個々の類縁物質：0.3%以下，総類縁物質：0.5%以下 ※2：表示量に対する含有率 (%) 変化あり：太字

(4) PTP 包装の安定性試験

◇オロパタジン塩酸塩錠 2.5mg「日医工」 PTP 包装 40℃ [遮光]

測定項目	ロット 番号	保存期間				
		開始時	2 週	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月
性状 <淡黄赤色のフィルムコーティング錠>	DI120	適合	同左	同左	同左	同左
純度試験 (HPLC) <※1>	DI120	適合	同左	同左	同左	同左
溶出性 (%) <15 分, 85%以上>	DI120	100.2~101.9	95.8~100.7	97.9~100.0	96.8~102.1	98.0~101.4
含量 (%) ※2 <95.0~105.0%>	DI120	101.1	100.8	99.8	100.5	100.3
(参考値) 硬度 (N) <19.6N 以上>	DI120	71	71	75	77	79

※1: 個々の類縁物質: 0.4%以下, 総類縁物質: 1.2%以下 ※2: 表示量に対する含有率 (%)

◇オロパタジン塩酸塩錠 2.5mg「日医工」 PTP 包装 25℃・75%RH [遮光]

測定項目	ロット 番号	保存期間				
		開始時	2 週	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月
性状 <淡黄赤色のフィルムコーティング錠>	DI120	適合	同左	同左	同左	同左
純度試験 (HPLC) <※1>	DI120	適合	同左	同左	同左	同左
溶出性 (%) <15 分, 85%以上>	DI120	100.2~101.9	100.5~102.2	86.3~101.4	97.7~102.1	98.4~101.7
含量 (%) ※2 <95.0~105.0%>	DI120	101.1	100.9	100.1	100.3	99.9
(参考値) 硬度 (N) <19.6N 以上>	DI120	71	62	61	59	58

※1: 個々の類縁物質: 0.4%以下, 総類縁物質: 1.2%以下 ※2: 表示量に対する含有率 (%)

◇オロパタジン塩酸塩錠 2.5mg「日医工」 PTP 包装 室温・曝光 [D65 光源]

測定項目	ロット 番号	総曝光量			
		開始時	40 万 Lx・hr	80 万 Lx・hr	120 万 Lx・hr
性状 <淡黄赤色のフィルムコーティング錠>	DI120	適合	同左	同左	同左
純度試験 (HPLC) <※1>	DI120	適合	同左	同左	同左
溶出性 (%) <15 分, 85%以上>	DI120	100.2~101.9	101.0~103.2	98.9~102.9	97.0~102.4
含量 (%) ※2 <95.0~105.0%>	DI120	101.1	101.0	99.4	99.4
(参考値) 硬度 (N) <19.6N 以上>	DI120	71	67	68	67

※1: 個々の類縁物質: 0.4%以下, 総類縁物質: 1.2%以下 ※2: 表示量に対する含有率 (%)

◇オロパタジン塩酸塩錠 5mg「日医工」 PTP包装 40℃ [遮光]

測定項目	ロット 番号	保存期間				
		開始時	2 週	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月
性状 ＜淡黄赤色の割線入りフィルムコーティング錠＞	DI130	適合	同左	同左	同左	同左
純度試験 (HPLC) ＜※1＞	DI130	適合	同左	同左	同左	同左
溶出性 (%) ＜15 分, 85%以上＞	DI130	98.4~103.7	100.8~102.1	96.3~101.7	96.8~100.0	96.2~98.8
含量 (%) ※2 ＜95.0~105.0%＞	DI130	100.6	99.4	99.2	99.6	99.6
(参考値) 硬度 (N) ＜19.6N 以上＞	DI130	69	73	72	73	69

※1: 個々の類縁物質: 0.4%以下, 総類縁物質: 1.2%以下 ※2: 表示量に対する含有率 (%)

◇オロパタジン塩酸塩錠 5mg「日医工」 PTP包装 25℃・75%RH [遮光]

測定項目	ロット 番号	保存期間				
		開始時	2 週	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月
性状 ＜淡黄赤色の割線入りフィルムコーティング錠＞	DI130	適合	同左	同左	同左	同左
純度試験 (HPLC) ＜※1＞	DI130	適合	同左	同左	同左	同左
溶出性 (%) ＜15 分, 85%以上＞	DI130	98.4~103.7	93.6~101.9	96.9~102.6	96.3~100.8	94.5~99.8
含量 (%) ※2 ＜95.0~105.0%＞	DI130	100.6	99.4	98.9	100.0	100.1
(参考値) 硬度 (N) ＜19.6N 以上＞	DI130	69	65	64	57	58

※1: 個々の類縁物質: 0.4%以下, 総類縁物質: 1.2%以下 ※2: 表示量に対する含有率 (%)

◇オロパタジン塩酸塩錠 5mg「日医工」 PTP包装 室温・曝光 [D65 光源]

測定項目	ロット 番号	総曝光量			
		開始時	40 万 Lx・hr	80 万 Lx・hr	120 万 Lx・hr
性状 ＜淡黄赤色の割線入りフィルムコーティング錠＞	DI130	適合	同左	同左	同左
純度試験 (HPLC) ＜※1＞	DI130	適合	同左	同左	同左
溶出性 (%) ＜15 分, 85%以上＞	DI130	98.4~103.7	94.2~100.9	95.7~101.0	96.5~101.4
含量 (%) ※2 ＜95.0~105.0%＞	DI130	100.6	100.8	99.0	99.1
(参考値) 硬度 (N) ＜19.6N 以上＞	DI130	69	65	69	66

※1: 個々の類縁物質: 0.4%以下, 総類縁物質: 1.2%以下 ※2: 表示量に対する含有率 (%)

◇オロパタジン塩酸塩 OD 錠 2.5mg「日医工」 PTP 包装 40℃ [遮光]

測定項目	ロット 番号	保存期間				
		開始時	2 週	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月
性状 <ごくうすい黄色の素錠>	J1130	適合	同左	同左	同左	同左
純度試験 (HPLC) <※1>	J1130	適合	同左	同左	同左	同左
溶出性 (%) <15 分, 85%以上>	J1130	97.3~100.9	98.8~101.0	99.7~102.7	95.4~99.4	99.7~104.2
含量 (%) ※2 <95.0~105.0%>	J1130	97.5	97.6	97.5	96.5	97.3
(参考値) 硬度 (N) <19.6N 以上>	J1130	65	67	66	63	62

※1: 個々の類縁物質: 0.3%以下, 総類縁物質: 0.5%以下 ※2: 表示量に対する含有率 (%)

◇オロパタジン塩酸塩 OD 錠 2.5mg「日医工」 PTP 包装 25℃・75%RH [遮光]

測定項目	ロット 番号	保存期間				
		開始時	2 週	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月
性状 <ごくうすい黄色の素錠>	J1130	適合	同左	同左	同左	同左
純度試験 (HPLC) <※1>	J1130	適合	同左	同左	同左	同左
溶出性 (%) <15 分, 85%以上>	J1130	97.3~100.9	98.6~101.6	100.7~102.9	95.3~97.1	100.1~101.9
含量 (%) ※2 <95.0~105.0%>	J1130	97.5	98.0	97.5	97.3	98.3
(参考値) 硬度 (N) <19.6N 以上>	J1130	65	54	53	55	53

※1: 個々の類縁物質: 0.3%以下, 総類縁物質: 0.5%以下 ※2: 表示量に対する含有率 (%)

◇オロパタジン塩酸塩 OD 錠 2.5mg「日医工」 PTP 包装 室温・曝光 [D65 光源]

測定項目	ロット 番号	総曝光量			
		開始時	40 万 Lx・hr	80 万 Lx・hr	120 万 Lx・hr
性状 <ごくうすい黄色の素錠>	J1130	適合	同左	同左	同左
純度試験 (HPLC) <※1>	J1130	適合	同左	同左	同左
溶出性 (%) <15 分, 85%以上>	J1130	97.3~100.9	98.7~101.4	101.9~103.9	90.7~101.7
含量 (%) ※2 <95.0~105.0%>	J1130	97.5	97.5	97.2	97.0
(参考値) 硬度 (N) <19.6N 以上>	J1130	65	65	62	66

※1: 個々の類縁物質: 0.3%以下, 総類縁物質: 0.5%以下 ※2: 表示量に対する含有率 (%)

◇オロパタジン塩酸塩 OD 錠 5mg「日医工」 PTP 包装 40℃ [遮光]

測定項目	ロット 番号	保存期間				
		開始時	2 週	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月
性状 <ごくうすい黄色の割線入り素錠>	J1160	適合	同左	同左	同左	同左
純度試験 (HPLC) <※1>	J1160	適合	同左	同左	同左	同左
溶出性 (%) <15 分, 85%以上>	J1160	95.0~101.7	101.3~103.5	98.8~102.5	100.1~102.4	99.1~102.5
含量 (%) ※2 <95.0~105.0%>	J1160	98.4	98.0	98.1	97.1	99.4
(参考値) 硬度 (N) <19.6N 以上>	J1160	59	61	59	58	59

※1：個々の類縁物質：0.3%以下，総類縁物質：0.5%以下 ※2：表示量に対する含有率 (%)

◇オロパタジン塩酸塩 OD 錠 5mg「日医工」 PTP 包装 25℃・75%RH [遮光]

測定項目	ロット 番号	保存期間				
		開始時	2 週	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月
性状 <ごくうすい黄色の割線入り素錠>	J1160	適合	同左	同左	同左	同左
純度試験 (HPLC) <※1>	J1160	適合	同左	同左	同左	同左
溶出性 (%) <15 分, 85%以上>	J1160	95.0~101.7	99.2~103.0	101.8~102.9	98.9~102.7	99.4~102.5
含量 (%) ※2 <95.0~105.0%>	J1160	98.4	97.8	98.6	97.6	100.6
(参考値) 硬度 (N) <19.6N 以上>	J1160	59	47	48	47	49

※1：個々の類縁物質：0.3%以下，総類縁物質：0.5%以下 ※2：表示量に対する含有率 (%)

◇オロパタジン塩酸塩 OD 錠 5mg「日医工」 PTP 包装 室温・曝光 [D65 光源]

測定項目	ロット 番号	総曝光量			
		開始時	40 万 Lx・hr	80 万 Lx・hr	120 万 Lx・hr
性状 <ごくうすい黄色の割線入り素錠>	J1160	適合	同左	同左	同左
純度試験 (HPLC) <※1>	J1160	適合	同左	同左	同左
溶出性 (%) <15 分, 85%以上>	J1160	95.0~101.7	97.9~102.5	100.8~103.4	98.4~100.8
含量 (%) ※2 <95.0~105.0%>	J1160	98.4	97.8	98.1	97.9
(参考値) 硬度 (N) <19.6N 以上>	J1160	59	59	55	61

※1：個々の類縁物質：0.3%以下，総類縁物質：0.5%以下 ※2：表示量に対する含有率 (%)

## 5. 調製法及び溶解後の安定性

該当しない

## 6. 他剤との配合変化（物理化学的変化）

該当しない

## 7. 溶出性

### （1）溶出規格

＜オロパタジン塩酸塩錠 2.5mg「日医工」、オロパタジン塩酸塩錠 5mg「日医工」＞

オロパタジン塩酸塩錠 2.5mg「日医工」及びオロパタジン塩酸塩錠 5mg「日医工」は、日本薬局方医薬品各条に定められたオロパタジン塩酸塩錠の溶出規格に適合していることが確認されている。

（試験液に水 900mL を用い、パドル法により、50rpm で試験を行う。）

溶出規格

表示量	規定時間	溶出率
2.5mg, 5mg	15 分	85%以上

## (2) 溶出試験<sup>2)</sup>

<オロパタジン塩酸塩錠 2.5mg「日医工」>

後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン等の一部改正について(平成18年11月24日薬食審査発第1124004号)

試験条件

装置：日本薬局方 溶出試験法 パドル法

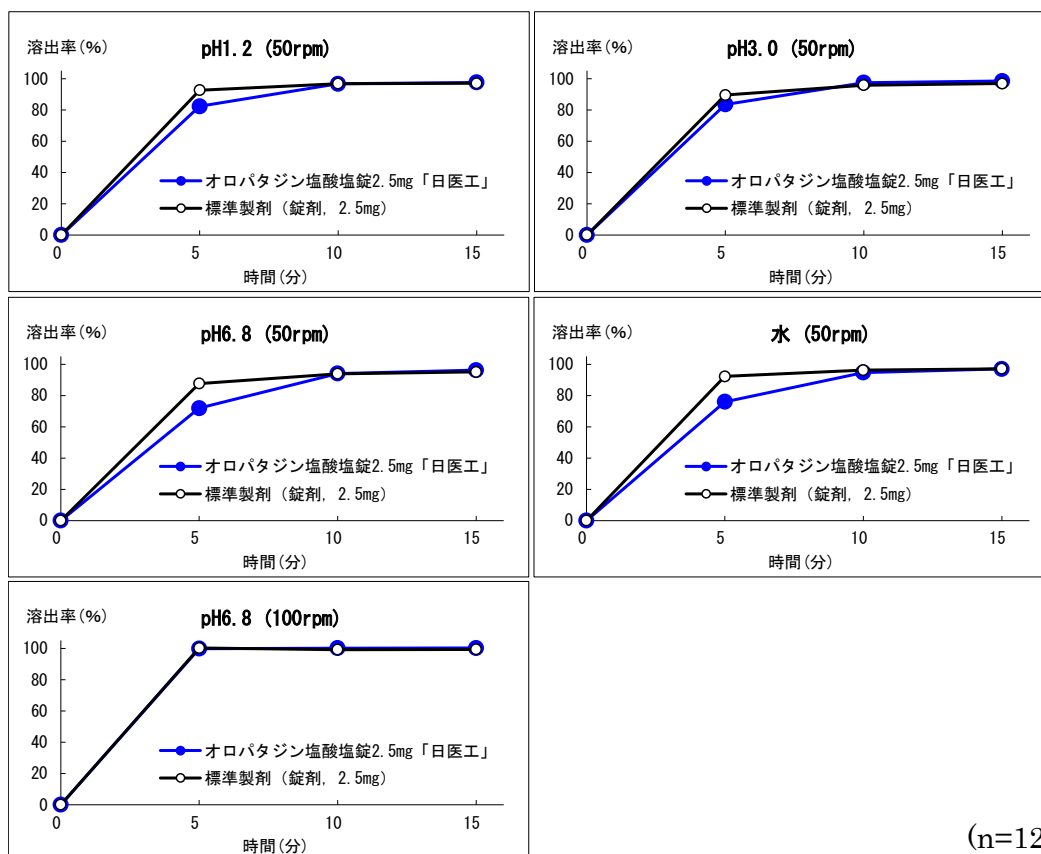
回転数及び試験液：50rpm (pH1.2, pH3.0, pH6.8, 水), 100rpm (pH6.8)

[判定]

- ・pH1.2 (50rpm) では、標準製剤及び本品はともに 15 分以内に平均 85%以上溶出した。
- ・pH3.0 (50rpm) では、標準製剤及び本品はともに 15 分以内に平均 85%以上溶出した。
- ・pH6.8 (50rpm) では、標準製剤及び本品はともに 15 分以内に平均 85%以上溶出した。
- ・水 (50rpm) では、標準製剤及び本品はともに 15 分以内に平均 85%以上溶出した。
- ・pH6.8 (100rpm) では、標準製剤及び本品はともに 15 分以内に平均 85%以上溶出した。

以上、本品の溶出挙動を標準製剤と比較した結果、全ての溶出試験条件において「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」の判定基準に適合した。

(溶出曲線)



(n=12)



<オロパタジン塩酸塩錠 5mg「日医工」>

後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン等の一部改正について(平成18年11月24日薬食審査発第1124004号)

試験条件

装置：日本薬局方 溶出試験法 パドル法

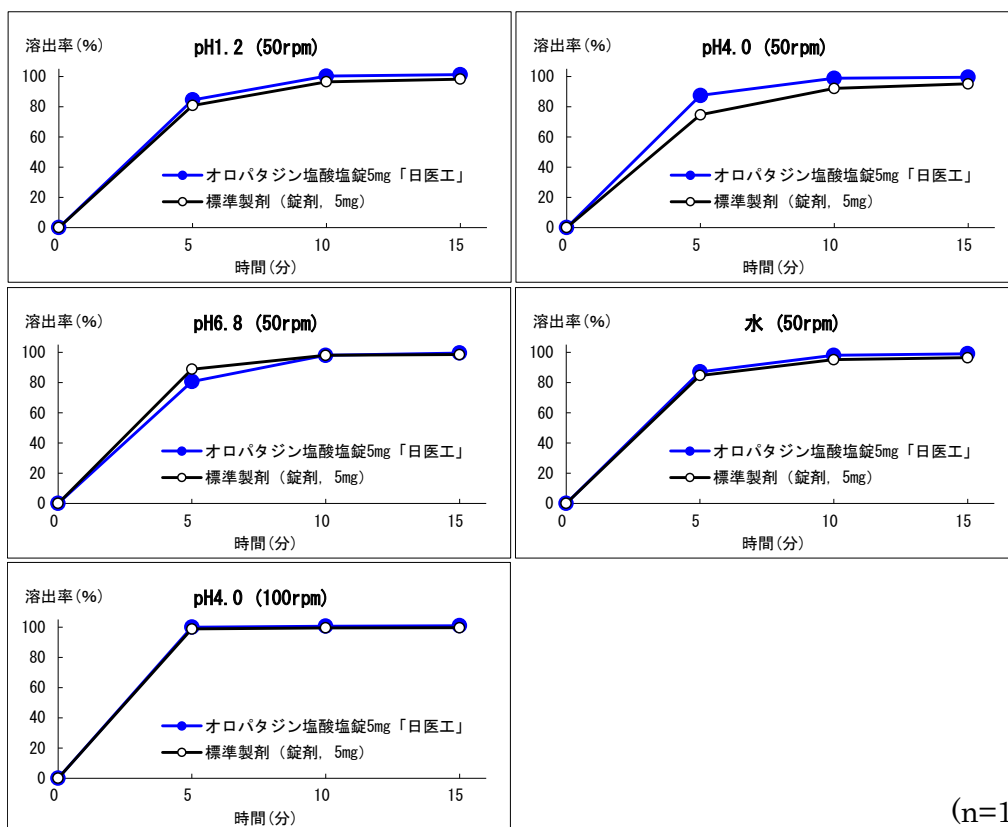
回転数及び試験液：50rpm (pH1.2, pH4.0, pH6.8, 水), 100rpm (pH4.0)

[判定]

- ・pH1.2 (50rpm) では、標準製剤及び本品はともに 15 分以内に平均 85%以上溶出した。
- ・pH4.0 (50rpm) では、標準製剤及び本品はともに 15 分以内に平均 85%以上溶出した。
- ・pH6.8 (50rpm) では、標準製剤及び本品はともに 15 分以内に平均 85%以上溶出した。
- ・水 (50rpm) では、標準製剤及び本品はともに 15 分以内に平均 85%以上溶出した。
- ・pH4.0 (100rpm) では、標準製剤及び本品はともに 15 分以内に平均 85%以上溶出した。

以上、本品の溶出挙動を標準製剤と比較した結果、全ての溶出試験条件において「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」の判定基準に適合した。

(溶出曲線)



(n=12)

## <オロパタジン塩酸塩 OD錠 5mg「日医工」>

後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン等の一部改正について(平成18年11月24日薬食審査発第1124004号)

### 試験条件

装置：日本薬局方 溶出試験法 パドル法

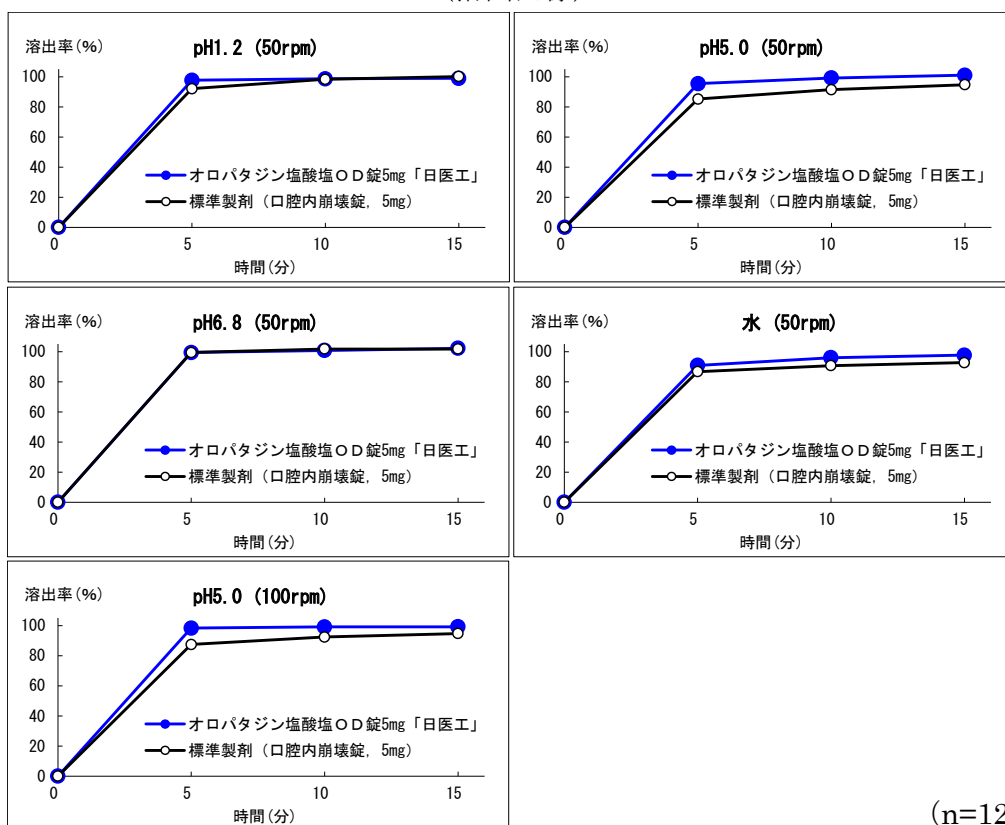
回転数及び試験液：50rpm (pH1.2, pH5.0, pH6.8, 水), 100rpm (pH5.0)

### [判定]

- ・pH1.2 (50rpm) では、標準製剤及び本品はともに 15 分以内に平均 85%以上溶出した。
- ・pH5.0 (50rpm) では、標準製剤及び本品はともに 15 分以内に平均 85%以上溶出した。
- ・pH6.8 (50rpm) では、標準製剤及び本品はともに 15 分以内に平均 85%以上溶出した。
- ・水 (50rpm) では、標準製剤及び本品はともに 15 分以内に平均 85%以上溶出した。
- ・pH5.0 (100rpm) では、標準製剤及び本品はともに 15 分以内に平均 85%以上溶出した。

以上、本品の溶出挙動を標準製剤と比較した結果、全ての溶出試験条件において「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」の判定基準に適合した。

### (溶出曲線)



(n=12)

### (3) 含量が異なる経口固形製剤の生物学的同等性試験<sup>3)</sup>

＜オロパタジン塩酸塩 OD錠 2.5mg「日医工」＞

オロパタジン塩酸塩 OD錠 2.5mg「日医工」は、「含量が異なる経口固形製剤の生物学的同等性試験ガイドライン（平成18年11月24日 薬食審査発第1124004号通知）」に基づき、オロパタジン塩酸塩 OD錠 5mg「日医工」を標準製剤としたとき、溶出挙動が等しく、生物学的に同等とみなされた。

試験条件

装置：日本薬局方 溶出試験法 パドル法

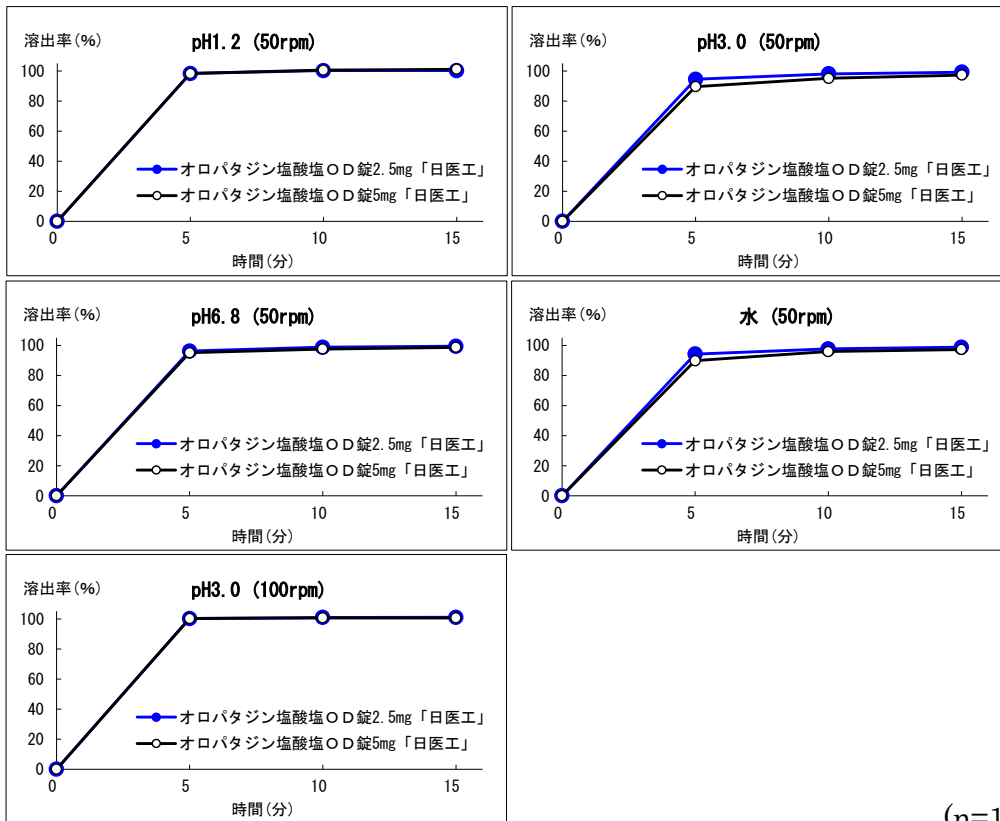
回転数及び試験液：50rpm (pH1.2, pH3.0, pH6.8, 水) , 100rpm (pH3.0)

[判定]

- ・pH1.2 (50rpm) では、標準製剤及び本品はともに 15 分以内に平均 85%以上溶出した。また、最終比較時点 (15 分) における本品の個々の溶出率は、本品の平均溶出率±15%の範囲を超えるものが 12 個中 1 個以下で、±25%の範囲を超えるものがなかった。
- ・pH3.0 (50rpm) では、標準製剤及び本品はともに 15 分以内に平均 85%以上溶出した。また、最終比較時点 (15 分) における本品の個々の溶出率は、本品の平均溶出率±15%の範囲を超えるものが 12 個中 1 個以下で、±25%の範囲を超えるものがなかった。
- ・pH6.8 (50rpm) では、標準製剤及び本品はともに 15 分以内に平均 85%以上溶出した。また、最終比較時点 (15 分) における本品の個々の溶出率は、本品の平均溶出率±15%の範囲を超えるものが 12 個中 1 個以下で、±25%の範囲を超えるものがなかった。
- ・水 (50rpm) では、標準製剤及び本品はともに 15 分以内に平均 85%以上溶出した。また、最終比較時点 (15 分) における本品の個々の溶出率は、本品の平均溶出率±15%の範囲を超えるものが 12 個中 1 個以下で、±25%の範囲を超えるものがなかった。
- ・pH3.0 (100rpm) では、標準製剤及び本品はともに 15 分以内に平均 85%以上溶出した。また、最終比較時点 (15 分) における本品の個々の溶出率は、本品の平均溶出率±15%の範囲を超えるものが 12 個中 1 個以下で、±25%の範囲を超えるものがなかった。

以上、本品の溶出挙動を標準製剤（オロパタジン塩酸塩 OD錠 5mg「日医工」）と比較した結果、全ての溶出試験条件において「含量が異なる経口固形製剤の生物学的同等性試験ガイドライン」の溶出挙動の判定基準に適合した。

(溶出曲線)



(n=12)

8. 生物学的試験法

該当資料なし

9. 製剤中の有効成分の確認試験法

紫外可視吸光度測定法

本品の吸収スペクトルを測定するとき、波長 295～299nm に吸収の極大を示す。

10. 製剤中の有効成分の定量法

液体クロマトグラフィー

検出器：紫外吸光光度計

移動相：ラウリル硫酸ナトリウム，リン酸塩緩衝液，アセトニトリル混液

11. 力価

該当しない

12. 混入する可能性のある夾雑物

該当資料なし

13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報

該当しない

14. その他

## V. 治療に関する項目

### 1. 効能又は効果

成人：アレルギー性鼻炎，蕁麻疹，皮膚疾患に伴うそう痒（湿疹・皮膚炎，痒疹，皮膚そう痒症，尋常性乾癬，多形滲出性紅斑）

小児：アレルギー性鼻炎，蕁麻疹，皮膚疾患（湿疹・皮膚炎，皮膚そう痒症）に伴うそう痒

### 2. 用法及び用量

成人：通常，成人には1回オロパタジン塩酸塩として5mgを朝及び就寝前の1日2回経口投与する。

なお，年齢，症状により適宜増減する。

小児：通常，7歳以上の小児には1回オロパタジン塩酸塩として5mgを朝及び就寝前の1日2回経口投与する。

#### <用法・用量に関連する使用上の注意>（OD錠のみ）

本剤は口腔内で崩壊するが，口腔粘膜から吸収されないため，唾液又は水で飲み込むこと。（「適用上の注意」の項参照）

### 3. 臨床成績

#### （1）臨床データパッケージ

該当資料なし

#### （2）臨床効果

該当資料なし

#### （3）臨床薬理試験

該当資料なし

#### （4）探索的試験

該当資料なし

#### （5）検証的試験

##### 1) 無作為化並行用量反応試験

該当資料なし

##### 2) 比較試験

該当資料なし

##### 3) 安全性試験

該当資料なし

##### 4) 患者・病態別試験

該当資料なし

#### （6）治療的使用

##### 1) 使用成績調査・特定使用成績調査（特別調査）・製造販売後臨床試験（市販後臨床試験）

該当資料なし

##### 2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要

該当しない

## VI. 薬効薬理に関する項目

### 1. 薬理的に関連のある化合物又は化合物群

ヒスタミン H<sub>1</sub> 受容体拮抗剤

アゼラスチン塩酸塩, エバスチン, エピナスチン塩酸塩, オキサトミド, ケトチフェン fumarate 塩酸塩, セチリジン塩酸塩, フェキソフェナジン塩酸塩, ベポタスチンベシル酸塩, レボセチリジン, ロラタジン等

### 2. 薬理作用

#### (1) 作用部位・作用機序<sup>4)</sup>

ヒスタミン H<sub>1</sub> 受容体拮抗作用を主体とし, ケミカルメディエーター (ロイコトリエン, トロンボキサン, PAF 等) の産生・遊離抑制作用を現す。更に, 神経伝達物質タキキニン遊離抑制作用も有する。

#### (2) 薬効を裏付ける試験成績

該当資料なし

#### (3) 作用発現時間・持続時間

該当資料なし

## VII. 薬物動態に関する項目

### 1. 血中濃度の推移・測定法

#### (1) 治療上有効な血中濃度

該当資料なし

#### (2) 最高血中濃度到達時間

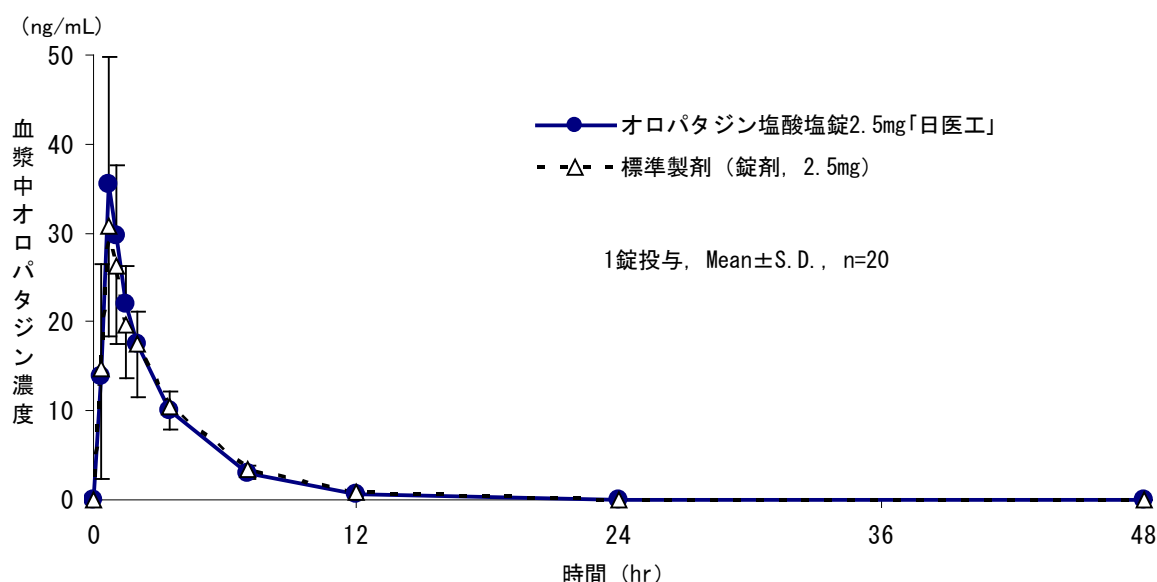
(「臨床試験で確認された血中濃度」の項参照)

#### (3) 臨床試験で確認された血中濃度

<オロパタジン塩酸塩錠 2.5mg「日医工」><sup>5)</sup>

後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン等の一部改正について(平成18年11月24日薬食審査発第1124004号)

オロパタジン塩酸塩錠 2.5mg「日医工」及び標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ1錠(オロパタジン塩酸塩として2.5mg)健康成人男子に絶食単回経口投与して血漿中オロパタジン濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ(AUC, Cmax)について90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、 $\log(0.80) \sim \log(1.25)$ の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。



[薬物速度論的パラメータ]

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUCt (ng·hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	t1/2 (hr)
オロパタジン塩酸塩錠 2.5mg「日医工」	101.8±19.3	37.7±11.8	0.86±0.31	2.32±0.50
標準製剤 (錠剤, 2.5mg)	100.9±15.8	34.8±8.24	0.93±0.68	2.58±0.97

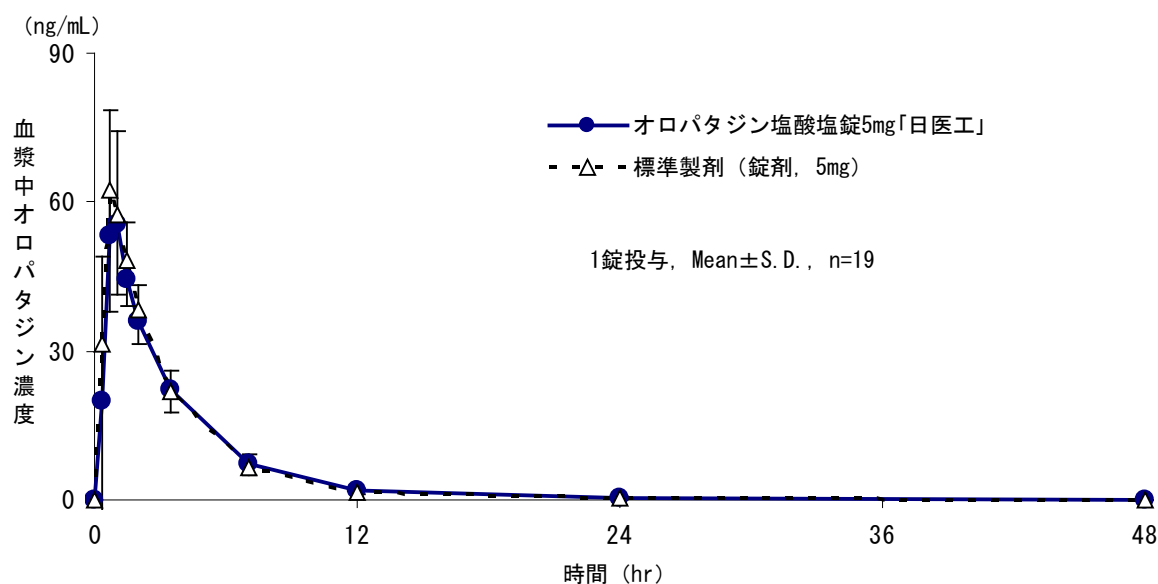
(1錠投与, Mean±S.D., n=20)

血漿中濃度並びにAUC, Cmax等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

<オロパタジン塩酸塩錠 5mg「日医工」><sup>5)</sup>

後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン等の一部改正について(平成18年11月24日薬食審査発第1124004号)

オロパタジン塩酸塩錠 5mg「日医工」及び標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ1錠(オロパタジン塩酸塩として 5mg)健康成人男子に絶食単回経口投与して血漿中オロパタジン濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ(AUC, Cmax)について90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、 $\log(0.80) \sim \log(1.25)$ の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。



[薬物速度論的パラメータ]

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUCt (ng·hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	t1/2 (hr)
オロパタジン塩酸塩錠 5mg「日医工」	214.6±33.9	67.9±18.2	0.88±0.43	3.50±0.87
標準製剤 (錠剤, 5mg)	219.3±37.5	72.7±20.1	0.82±0.43	3.57±1.21

(1錠投与, Mean±S.D., n=19)

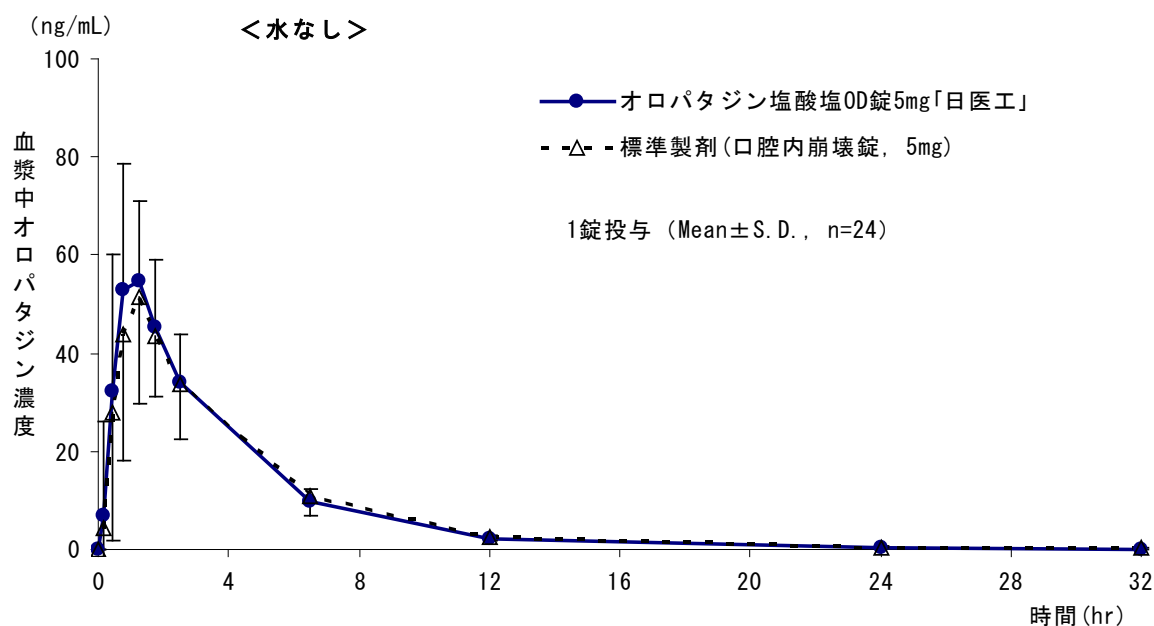
血漿中濃度並びに AUC, Cmax 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。



<オロパタジン塩酸塩 OD錠 5mg「日医工」><sup>3)</sup>

後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン等の一部改正について(平成18年11月24日薬食審査発第1124004号)

オロパタジン塩酸塩 OD錠 5mg「日医工」及び標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ1錠(オロパタジン塩酸塩として5mg)健康成人男性に絶食単回経口投与して血漿中オロパタジン濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ(AUC, Cmax)について90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、 $\log(0.80) \sim \log(1.25)$ の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。

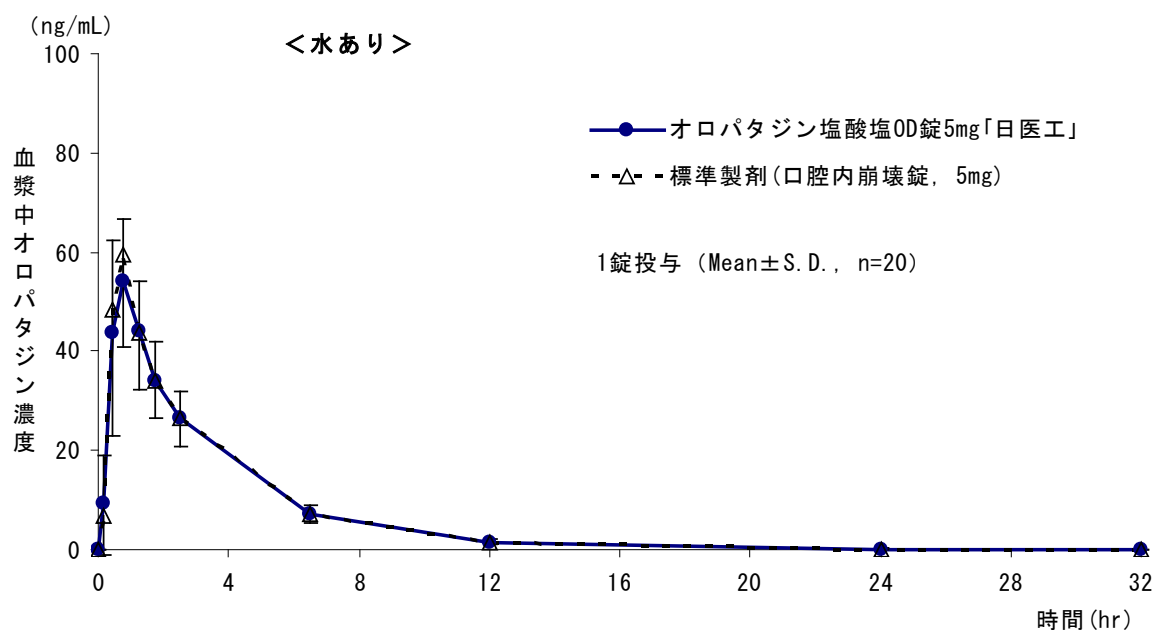


[薬物速度論的パラメータ：水なし]

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUCt (ng·hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	t1/2 (hr)
オロパタジン塩酸塩 OD錠 5mg「日医工」	239.7 ± 41.0	71.6 ± 15.7	1.04 ± 0.43	4.66 ± 2.25
標準製剤 (口腔内崩壊錠, 5mg)	237.9 ± 49.0	66.8 ± 17.6	1.21 ± 0.58	4.51 ± 1.97

(1錠投与, Mean ± S.D., n=24)

血漿中濃度並びに AUC, Cmax 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。



[薬物速度論的パラメータ：水あり]

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUCt (ng·hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	t1/2 (hr)
オロパタジン塩酸塩 OD錠5mg「日医工」	192.7±35.0	57.9±11.1	0.72±0.23	2.79±0.95
標準製剤 (口腔内崩壊錠, 5mg)	195.2±35.7	62.0±19.3	0.82±0.45	2.82±0.89

(1錠投与, Mean±S.D., n=20)

血漿中濃度並びに AUC, Cmax 等のパラメータは, 被験者の選択, 体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

**(4) 中毒域**

該当資料なし

**(5) 食事・併用薬の影響**

該当資料なし

**(6) 母集団 (ポピュレーション) 解析により判明した薬物体内動態変動要因**

該当資料なし

## 2. 薬物速度論的パラメータ

### (1) 解析方法

該当資料なし

### (2) 吸収速度定数

該当資料なし

### (3) バイオアベイラビリティ

該当資料なし

### (4) 消失速度定数

該当資料なし

### (5) クリアランス

該当資料なし

### (6) 分布容積

該当資料なし

### (7) 血漿蛋白結合率

該当資料なし

## 3. 吸収

該当資料なし

## 4. 分布

### (1) 血液-脳関門通過性

該当資料なし

### (2) 血液-胎盤関門通過性

(「VIII - 10. 妊婦, 産婦, 授乳婦等への投与」の項参照)

### (3) 乳汁への移行性

(「VIII - 10. 妊婦, 産婦, 授乳婦等への投与」の項参照)

### (4) 髄液への移行性

該当資料なし

### (5) その他の組織への移行性

該当資料なし

## 5. 代謝

### (1) 代謝部位及び代謝経路

該当資料なし

### (2) 代謝に関与する酵素 (CYP450 等) の分子種

該当資料なし

### (3) 初回通過効果の有無及びその割合

該当資料なし

### (4) 代謝物の活性の有無及び比率

該当資料なし

### (5) 活性代謝物の速度論的パラメータ

該当資料なし

**6. 排泄**

**(1) 排泄部位及び経路**

該当資料なし

**(2) 排泄率**

該当資料なし

**(3) 排泄速度**

該当資料なし

**7. トランスポーターに関する情報**

該当資料なし

**8. 透析等による除去率**

該当資料なし

## Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

### 1. 警告内容とその理由

該当記載事項なし

### 2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）

#### 【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

### 3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

### 4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由

（「Ⅴ. 治療に関する項目」を参照）

### 5. 慎重投与内容とその理由

#### 【慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）】

（1）腎機能低下患者 [高い血中濃度が持続するおそれがある。]

（2）高齢者（「高齢者への投与」の項参照）

（3）肝機能障害のある患者 [肝機能障害が悪化するおそれがある。]

### 6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法

（1）眠気を催すことがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作には従事させないよう十分注意すること。

（2）長期ステロイド療法を受けている患者で、本剤投与によりステロイド減量を図る場合には十分な管理下で徐々に行うこと。

（3）本剤を季節性の患者に投与する場合は、好発季節を考えて、その直前から投与を開始し、好発季節終了時まで続けることが望ましい。

（4）本剤の使用により効果が認められない場合には、漫然と長期にわたり投与しないように注意すること。

### 7. 相互作用

#### （1）併用禁忌とその理由

該当記載事項なし

#### （2）併用注意とその理由

該当記載事項なし

## 8. 副作用

### (1) 副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

### (2) 重大な副作用と初期症状（頻度不明）

**劇症肝炎、肝機能障害、黄疸**：劇症肝炎、AST (GOT) , ALT (GPT) ,  $\gamma$ -GTP, LDH, Al-P の上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

### (3) その他の副作用

下記のような副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には減量・休薬等の適切な処置を行うこと。

	頻度不明
過 敏 症 <sup>注)</sup>	紅斑等の発疹、浮腫（顔面・四肢等）、そう痒、呼吸困難
精神神経系	眠気、けん怠感、口渇、頭痛・頭重感、めまい、集中力低下、しびれ感、不随意運動（顔面・四肢等）
消 化 器	腹部不快感、腹痛、嘔気、下痢、便秘、口内炎・口角炎・舌痛、胸やけ、食欲亢進、嘔吐
肝 臓	肝機能異常（AST(GOT), ALT(GPT), $\gamma$ -GTP, LDH, Al-P, 総ビリルビン上昇）
血 液	白血球増多、好酸球増多、リンパ球減少、白血球減少、血小板減少
腎臓・泌尿器	尿潜血、BUN上昇、尿蛋白陽性、血中クレアチニン上昇、頻尿、排尿困難
循 環 器	動悸、血圧上昇
そ の 他	血清コレステロール上昇、尿糖陽性、胸部不快感、味覚異常、体重増加、ほてり、月経異常、筋肉痛、関節痛

注) このような症状があらわれた場合には、投与を中止すること。

### (4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

該当資料なし

### (5) 基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

### (6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法

- 1) **禁忌**：本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者には投与しないこと。
- 2) **その他の副作用**：過敏症（紅斑等の発疹、浮腫（顔面・四肢等）、そう痒、呼吸困難）の症状があらわれた場合には、投与を中止すること。

## 9. 高齢者への投与

高齢者では生理機能が低下していることが多く、副作用が発現しやすいので、低用量から投与を開始するなど患者の状態を観察しながら慎重に投与すること。

## 10. 妊婦，産婦，授乳婦等への投与

- (1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には，治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。〔妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。〕
- (2) 授乳中の婦人に投与することを避け，やむを得ず投与する場合には授乳を中止させること。〔動物実験（ラット）で乳汁中への移行及び出生児の体重増加抑制が報告されている。〕

## 11. 小児等への投与

低出生体重児，新生児，乳児，幼児に対する安全性は確立していない（使用経験が少ない）。

## 12. 臨床検査結果に及ぼす影響

本剤の投与は，アレルギー皮内反応を抑制し，アレルギーの確認に支障を来すので，アレルギー皮内反応検査を実施する前は本剤を投与しないこと。

## 13. 過量投与

該当記載事項なし

## 14. 適用上の注意

- (1) **薬剤交付時**：PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。  
(PTPシートの誤飲により，硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し，更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。)

<錠 2.5mg，錠 5mg>

- (2) **薬剤分割時**：分割したときは遮光下に保存すること。

<OD錠 2.5mg，OD錠 5mg>

- (3) **服用時**：本剤は舌の上へのせ，唾液を浸潤させて，唾液のみで服用可能である。また，水で服用することもできる。

## 15. その他の注意

因果関係は明らかではないが，オロパタジン塩酸塩製剤（普通錠）を投与中に心筋梗塞の発症がみられた症例が報告されている。

## 16. その他

【取扱い上の注意】（OD錠のみ）

本剤は，口腔内崩壊錠のため自動分包機を使用する場合は欠けることがあるので，カセットの位置及び錠剤投入量などに配慮すること。

## IX. 非臨床試験に関する項目

### 1. 薬理試験

(1) 薬効薬理試験（「VI. 薬効薬理に関する項目」参照）

(2) 副次的薬理試験

該当資料なし

(3) 安全性薬理試験

該当資料なし

(4) その他の薬理試験

該当資料なし

### 2. 毒性試験

(1) 単回投与毒性試験

該当資料なし

(2) 反復投与毒性試験

該当資料なし

(3) 生殖発生毒性試験

該当資料なし

(4) その他の特殊毒性

該当資料なし



## X. 管理的事項に関する項目

### 1. 規制区分

製 剤	オロパタジン塩酸塩錠 2.5mg「日医工」	なし
	オロパタジン塩酸塩錠 5mg「日医工」	なし
	オロパタジン塩酸塩 OD 錠 2.5mg「日医工」	なし
	オロパタジン塩酸塩 OD 錠 5mg「日医工」	なし
有効成分	オロパタジン塩酸塩	なし

### 2. 有効期間又は使用期限

外箱等に表示の使用期限内に使用すること。（3年：安定性試験結果に基づく）

### 3. 貯法・保存条件

オロパタジン塩酸塩錠 2.5mg「日医工」	室温保存
オロパタジン塩酸塩錠 5mg「日医工」	室温保存
オロパタジン塩酸塩 OD 錠 2.5mg「日医工」	気密容器で室温保存
オロパタジン塩酸塩 OD 錠 5mg「日医工」	気密容器で室温保存

### 4. 薬剤取扱い上の注意点

#### (1) 薬局での取り扱い上の留意点について

（「Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）」に関する項目」を参照）

#### (2) 薬剤交付時の取扱いについて（患者等に留意すべき必須事項等）

くすりのしおり：有り

（「Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）」に関する項目」を参照）

#### (3) 調剤時の留意点について

該当記載事項なし

### 5. 承認条件等

該当しない

### 6. 包装

	PTP	バラ
オロパタジン塩酸塩錠 2.5mg「日医工」	100錠（10錠×10）	—
オロパタジン塩酸塩錠 5mg「日医工」	100錠（10錠×10） 140錠（14錠×10） 500錠（10錠×50）	500錠
オロパタジン塩酸塩 OD 錠 2.5mg「日医工」	100錠（10錠×10）	—
オロパタジン塩酸塩 OD 錠 5mg「日医工」	100錠（10錠×10） 500錠（10錠×50）	500錠

## 7. 容器の材質

	材質
オロパタジン塩酸塩錠 2.5mg「日医工」	PTP：ポリプロピレン，アルミニウム箔
オロパタジン塩酸塩錠 5mg「日医工」	PTP：ポリプロピレン，アルミニウム箔 バラ：ポリプロピレン・ポリエチレン・ポリプロピレンフィルム
オロパタジン塩酸塩 OD 錠 2.5mg「日医工」	PTP：ポリ塩化ビニル，アルミニウム箔
オロパタジン塩酸塩 OD 錠 5mg「日医工」	PTP：ポリ塩化ビニル，アルミニウム箔 バラ：ポリエチレンテレフタレート，アルミニウム，ポリエチレンラミ ネートフィルム

## 8. 同一成分・同効薬

同一成分薬：

アレロック錠 2.5，アレロック錠 5，アレロック OD 錠 2.5，アレロック OD 錠 5

## 9. 国際誕生年月日

不明

## 10. 製造販売承認年月日及び承認番号

	製造承認年月日	承認番号
オロパタジン塩酸塩錠 2.5mg「日医工」	2012年8月15日	22400AMX01214000
オロパタジン塩酸塩錠 5mg「日医工」	2012年8月15日	22400AMX01216000
オロパタジン塩酸塩 OD 錠 2.5mg「日医工」	2013年2月15日	22500AMX00331000
オロパタジン塩酸塩 OD 錠 5mg「日医工」	2013年2月15日	22500AMX00330000

## 11. 薬価基準収載年月日

	薬価基準収載年月日
オロパタジン塩酸塩錠 2.5mg「日医工」	2012年12月14日
オロパタジン塩酸塩錠 5mg「日医工」	2012年12月14日
オロパタジン塩酸塩 OD 錠 2.5mg「日医工」	2013年6月21日
オロパタジン塩酸塩 OD 錠 5mg「日医工」	2013年6月21日

## 12. 効能又は効果追加, 用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容

＜効能・効果及び用法・用量追加＞

効能・効果及び用法・用量追加年月日：2014年12月17日

製品名：オロパタジン塩酸塩錠 2.5mg「日医工」、オロパタジン塩酸塩錠 5mg「日医工」、  
オロパタジン塩酸塩 OD 錠 2.5mg「日医工」、オロパタジン塩酸塩 OD 錠 5mg「日医工」

内 容：

	効能・効果追加後	効能・効果追加前
効能・効果	成人：アレルギー性鼻炎，蕁麻疹，皮膚疾患に伴うそう痒（湿疹・皮膚炎，痒疹，皮膚そう痒症，尋常性乾癬，多形滲出性紅斑） 小児：アレルギー性鼻炎，蕁麻疹，皮膚疾患（湿疹・皮膚炎，皮膚そう痒症）に伴うそう痒	成人：アレルギー性鼻炎，蕁麻疹，皮膚疾患に伴うそう痒（湿疹・皮膚炎，痒疹，皮膚そう痒症，尋常性乾癬，多形滲出性紅斑）
用法・用量	成人：通常，成人には1回オロパタジン塩酸塩として5mgを朝及び就寝前の1日2回経口投与する。なお，年齢，症状により適宜増減する。 小児：通常，7歳以上の小児には1回オロパタジン塩酸塩として5mgを朝及び就寝前の1日2回経口投与する。	成人：通常，成人には1回オロパタジン塩酸塩として5mgを朝及び就寝前の1日2回経口投与する。なお，年齢，症状により適宜増減する。

（\_：効能・効果及び用法・用量追加に伴う追加箇所）

## 13. 再審査結果, 再評価結果公表年月日及びその内容

該当しない

## 14. 再審査期間

該当しない

## 15. 投与期間制限医薬品に関する情報

本剤は，投薬期間制限の対象となる医薬品ではない。

## 16. 各種コード

	薬価基準収載 医薬品コード	レセプト 電算コード	HOT(9桁) コード
オロパタジン塩酸塩錠 2.5mg「日医工」	4490025F1244	622207601	122076601
オロパタジン塩酸塩錠 5mg「日医工」	4490025F2240	622207701	122077301
オロパタジン塩酸塩 OD 錠 2.5mg「日医工」	4490025F3123	622230601	122306401
オロパタジン塩酸塩 OD 錠 5mg「日医工」	4490025F4120	622230701	122307101

## 17. 保険給付上の注意

本剤は保険診療上の後発医薬品である。

## **X I. 文献**

### **1. 引用文献**

- 1) 日医工株式会社 社内資料 (安定性試験)
- 2) 日医工株式会社 社内資料 (溶出試験 ; 錠 2.5mg, 錠 5mg, OD 錠 5mg)
- 3) 神谷 有久理 他 : 診療と新薬, 50(3), 231(2013)
- 4) 第十六改正日本薬局方第二追補解説書 C-50, 廣川書店, 東京 (2014)
- 5) 陶 易王 他 : 診療と新薬, 49(11), 1377(2012)

### **2. その他の参考文献**

なし

## **X II. 参考資料**

### **1. 主な外国での発売状況**

なし

### **2. 海外における臨床支援情報**

なし

## **X III. 備考**

### **その他の関連資料**

なし

付表 1—1

薬食発第 0331015 号（平成 17 年 3 月 31 日）に基づく承認申請時に添付する資料

別表 1 及び別表 2-（1）医療用医薬品より改変

添付資料の内容		新有効成分含有製剤（先発医薬品）	その他の医薬品（後発医薬品）	剤形追加に係る医薬品（後発医薬品）
イ 起源又は発見の経緯及び外国における使用状況等に関する資料	1 起源又は発見の経緯	○	×	○
	2 外国における使用状況	○	×	○
	3 特性及び他の医薬品との比較検討等	○	×	○
ロ 製造方法並びに規格及び試験方法等に関する資料	1 構造決定及び物理化学的性質等	○	×	×
	2 製造方法	○	△	○
	3 規格及び試験方法	○	○	○
ハ 安定性に関する資料	1 長期保存試験	○	×	△
	2 苛酷試験	○	×	△
	3 加速試験	○	○	○
ニ 薬理作用に関する資料	1 効力を裏付ける試験	○	×	×
	2 副次的薬理・安全性薬理	○	×	×
	3 その他の薬理	△	×	×
ホ 吸収、分布、代謝、排泄に関する資料	1 吸収	○	×	×
	2 分布	○	×	×
	3 代謝	○	×	×
	4 排泄	○	×	×
	5 生物学的同等性	×	○	○
	6 その他の薬物動態	△	×	×
ヘ 急性毒性、亜急性毒性、慢性毒性、催奇形性その他の毒性に関する資料	1 単回投与毒性	○	×	×
	2 反復投与毒性	○	×	×
	3 遺伝毒性	○	×	×
	4 がん原性	△	×	×
	5 生殖発生毒性	○	×	×
	6 局所刺激性	△	×	×
	7 その他の毒性	△	×	×
ト 臨床試験の成績に関する資料	臨床試験成績	○	×	×

○：添付，×：添付不要，△：個々の医薬品により判断される

付表 1 — 2

医薬発第 481 号（平成 11 年 4 月 8 日）に基づく承認申請時に添付する資料

別表 1 及び別表 2-（1）医療用医薬品より改変

添付資料の内容		新有効成分含有製剤（先発医薬品）	その他の医薬品（後発医薬品）	剤形追加に係る医薬品（後発医薬品）
イ 起源又は発見の経緯及び外国における使用状況等に関する資料	1 起源又は発見の経緯	○	×	○
	2 外国における使用状況	○	×	○
	3 特性及び他の医薬品との比較検討等	○	×	○
ロ 物理的・化学的性質並びに規格及び試験方法等に関する資料	1 構造決定	○	×	×
	2 物理的・科学的性質等	○	×	×
	3 規格及び試験方法	○	○	○
ハ 安定性に関する資料	1 長期保存試験	○	×	△
	2 苛酷試験	○	×	△
	3 加速試験	○	○	○
ニ 急性毒性、亜急性毒性、慢性毒性、催奇形性その他の毒性に関する資料	1 単回投与毒性	○	×	×
	2 反復投与毒性	○	×	×
	3 生殖発生毒性	○	×	×
	4 変異原性	○	×	×
	5 がん原性	△	×	×
	6 局所刺激性	△	×	×
	7 その他の毒性	△	×	×
ホ 薬理作用に関する資料	1 効力を裏付ける試験	○	×	×
	2 一般薬理	○	×	×
ヘ 吸収、分布、代謝、排泄に関する資料	1 吸収	○	×	×
	2 分布	○	×	×
	3 代謝	○	×	×
	4 排泄	○	×	×
	5 生物学的同等性	×	○	○
ト 臨床試験の成績に関する資料	臨床試験成績	○	×	×

○：添付，×：添付不要，△：個々の医薬品により判断される

付表 1 — 3

薬発第 698 号（昭和 55 年 5 月 30 日）に基づく承認申請時に添付する資料

別表 1 及び別表 2-（1）医療用医薬品より改変

添付資料の内容		新有効成分含有製剤（先発医薬品）	その他の医薬品（後発医薬品）	剤形追加に係る医薬品（後発医薬品）
イ 起源又は発見の経緯及び外国における使用状況等に関する資料	1 起源又は発見の経緯	○	×	○
	2 外国における使用状況	○	×	○
	3 特性及び他の医薬品との比較検討等	○	×	○
ロ 物理的・化学的性質並びに規格及び試験方法等に関する資料	1 構造決定	○	×	×
	2 物理的・化学的性質等	○	×	×
	3 規格及び試験方法	○	○	○
ハ 安定性に関する資料	1 長期保存試験	○	×	×
	2 苛酷試験	○	×	×
	3 加速試験	×	○	○
ニ 急性毒性、亜急性毒性、慢性毒性、催奇形性その他の毒性に関する資料	1 急性毒性	○	×	×
	2 亜急性毒性	○	×	×
	3 慢性毒性	○	×	×
	4 生殖に及ぼす影響	○	×	×
	5 依存性	△	×	×
	6 抗原性	△	×	×
	7 変異原性	△	×	×
	8 がん原性	△	×	×
	9 局所刺激	△	×	×
ホ 薬理作用に関する資料	1 効力を裏付ける試験	○	×	×
	2 一般薬理	○	×	×
ヘ 吸収、分布、代謝、排泄に関する資料	1 吸収	○	×	×
	2 分布	○	×	×
	3 代謝	○	×	×
	4 排泄	○	×	×
	5 生物学的同等性	×	○	○
ト 臨床試験の試験成績に関する資料	臨床試験の試験成績	○	×	○

○：添付，×：添付不要，△：個々の医薬品により判断される